

「グローバル人材の育成に向けたESD推進事業」の報告会

文部科学省主催の「グローバル人材の育成に向けたESD推進事業」の報告会が1月25日(月)に東京で開催され、大牟田市教育委員会指導室の総括指導主事・荒木秀敏先生が大牟田市の取組について報告されました。内容を抜粋してお知らせします。

★コンソーシアムの3つの目的

1. 市内のユネスコスクールの「持続可能な開発のための教育」のさらなる充実・深化を図る。
2. 九州地区を中心とした他地域や海外のユネスコスクール及びユネスコスクール以外の学校との交流を図り、ESDのさらなる普及発展に期する。
3. グローバルに活躍するために求められる資質・能力を育むESDの幅を広げ、学校に限らない広範な普及を図り、国際的視野を持つグローバル人材の裾野を広げること。

★具体的な事業内容

○教育委員会としてユネスコスクールへの支援

- ・ESDに関する研修会の開催 ・「ユネスコスクール便り」の発行
- ・ユネスコスクール支援センターの活用と充実
- ・「ESD実践の手引き」「パンフレット」の作成と配布
- ・研究指定校、研究所研究員による研究推進
- ・「ユネスコスクール子どもサミット」開催
- ・国内外のユネスコスクール間交流の推進 など



○啓発活動の推進

- ・教職員への便りやパンフレットの発行・配布
- ・出前講座や視察を通しての他市町村への啓発
- ・「ユネスコスクール・ESD支援教育委員会サミット」の開催
- ・市広報誌への掲載を通しての市民への啓発 など

○他団体との連携

- ・NPO団体との連携事業 ・参画企業等との連携
- ・まちづくりフォーラム、ロータリークラブなどの団体への説明

大牟田市の取組は高く評価され、進むべき方向に間違いはないと確信できた報告会だったようです。今後も子ども達の成長のために、大牟田市におけるESDを広く発信し、さらなる充実を図っていきましょう。

大牟田市立宅峰中学校の実践

「地域のひと」との連携を通して



宅峰中学校では、「学びの旅」と題して、3年間で問題解決能力、学び方、主体的態度、自己の生き方を考える力を育成することに重点を置いて取り組んでいます。そのために、様々な人とかかわるような体験活動を設定しています。年間を通して、地域のひと・もの・こととの連携を深めていく活動を行っています。2学期には1年生で「地域の方との交流体験」、2年生で「職場体験」、3年生で「保育体験」に取り組みました。写真は1年生の自然体験の様子です。



大牟田市立天の原小学校の実践

連続した「交流」を通して ～4年生の取組を中心に～



天の原小学校では、3年生から5年生が特別支援学校と交流を実施しています。その中で4年生では「七夕飾り・七夕交流」に取り組みました。まず「七夕飾り」では、3年生の「なかよし交流会」をもとに、一緒に製作できる飾りや関わり方、「七夕交流」では、七夕飾りの交流をもとに、飾り付けやゲームでの関わり方を考えます。そして、5年生での「ふれあい交流」へつなげるようにしています。このように本校のESDでは、特別支援学校との連続した「交流」を実施し、相手への理解を深め、よりよい関わり方を考え、実際の行動ができる子どもの育成に取り組んでいます。

